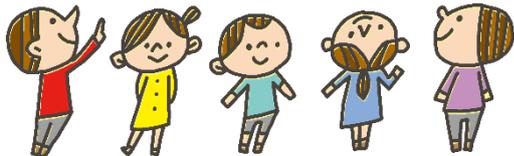


福岡県教協養護教員部研究集会

演題「新型コロナウイルス感染症を考える」

～ウイルスとの闘いではなく共生へ～

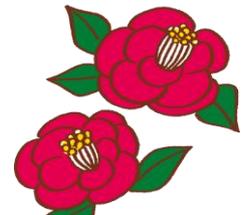


長崎大学教授
山本 太郎 さん 講演

2019年12月、中国で新型コロナウイルス感染症が発生してから、1年が経とうとしています。2020年11月現在、日本では1日の感染者数が2000人を超え、第3波か？と言われる状況にあります。ただ、学校現場では陽性者が出たとしてもインフルエンザのように感染拡大するわけでもなく、休校までする必要はあるのか、という疑問の声も出てきています。これから先、私たちは、この新型コロナウイルス（または今後、新たに出てくるであろうウイルス）と、どう向き合っていくべきなのでしょう。

今回、長年にわたって感染症と人類の関係を研究されてきた山本太郎さんのお話をお聞きし、文明の発展と自然破壊の現実から感染症の歴史を学び、病原体との共生について、みなさんと考える機会になればと思っています。ぜひ、ご参加ください。

*日時 2021年2月6日(土)
講演 15:00～16:30



<山本太郎さんのプロフィール>

1990年長崎大学医学部卒業。医師、博士(医学・国際保健学)。専門は、国際保健学、熱帯感染症学。アフリカ、ハイチなどで感染症対策に従事する。京都大学医学研究科助教授(2000～2004)、外務省国際協力局 課長補佐(2004～2007)、長崎大学熱帯医学研究所 国際保健分野教授(2007～)。主な著書に「感染症と文明—共生への道」(岩波新書)「ハイチ いのちとの闘い」(昭和堂)、訳書に「エイズウイルスの起源と進化—」(学会出版センター)など。